



ESDってなあに？

ESDとは、「持続可能な開発のための教育，Education for Sustainable Development」の略です。「持続可能な開発」を実現するために考え，行動できる人材を育成する教育のことです。

2002(平成 14)年の持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグ・サミット)で日本政府と日本のNGOが『ESDの10年』を提言し，第57回国連総会において，2005(平成 17)年から2014(平成 26)年までの10年間を「国連持続可能な開発のための教育の10年(UNDESD)」とすることが決議されました。

日本国内においては，環境・開発・人権・平和・ジェンダーなどの様々な社会的課題に携わるNGO・NPOや個人が集ってESD-Jが設立され，政府や自治体，企業，教育機関などと協働・連携して，ESDを推進しています。

学校現場では，環境教育，開発教育，多文化共生教育，福祉教育，人権教育，平和教育，ジェンダー教育などに関連付けた実践が，また市民のまちづくりや国際協力などの現場でも，それぞれの社会的な課題に関わる様々なESDの取り組みが推進されています。

事業報告

NGO相談員を招聘した「公開試行ワークショップ」の実施

地球市民共育塾ひろしま事務局

1 事業名称

「参加型」で「平和」「ヒロシマ」を学ぼう～教室で/修学旅行で/セミナーで活用できる参加型オリジナル平和教材による「公開試行ワークショップ」

県立広島大学重点研究事業(地域課題解決研究)「参加型の新しい平和教育教材の開発～広島地域課題に根ざしたESDの取組」の一環として行う事業

2 経緯

被爆地広島においては、これまで様々な平和教育の取り組みが行なわれてきているが、これまでの教材の多くは知識注入型のため、参加型による効果的で使いやすい教材の開発が課題として考えられる。市民団体「地球市民共育塾ひろしま」では、2010年度より、参加型の平和学習教材の開発に取り組んできたが、本年度、県立広島大学重点研究事業(地域課題解決研究)の指定を受け、県立広島大学富田研究室と共同研究により教材開発に取り組んでいる。

3 事業の目的

現在、教材開発グループの月一回の勉強会により教材作成中であるが、現在制作中の教材を「公開試行ワークショップ」により実演し、参加者のフィードバックにより教材を今後さらに改善する。併せてNGO相談員を招聘し、専門的な立場から教材についての批評を得る機会とする。

4 事業の内容

(1)実施方法

一般公募による参加者を募り、制作中の教材を実演するワークショップ講座を開催する。

(2)主催

県立広島大学 ・ 地球市民共育塾ひろしま

(3)実施内容

Aコース「教室で参加型!!」 11月26日(土) 13:30～17:00

会場 県立広島大学 広島キャンパス(広島市南区宇品東1-1-71)

○参加型教材「はじめの第一歩」ファシリテーター：西川京子

○参加型教材「平和ファシリテーターになろう」ファシリテーター：服部淳子

Bコース「平和公園で参加型!!」 11月27日(日) 9:30～13:00

会場 広島平和文化センター研修室(広島市中区中島町1番5号)

○参加型教材「平和公園オリエンテーリング」ファシリテーター：岡田祐一

○参加型教材「ヒロシマを伝えるために」ファシリテーター：中須賀裕幸

5 NGO相談員の招聘

(1)NGO相談員

岩崎裕保さん(開発教育協会代表理事)をアドバイザーとして招聘。

(2)NGO相談員の役割

- ・「開発教育」の意義と目的をワークショップ参加者に解説していただく。
- ・ワークショップ講座に参加していただき、そのプログラム内容の今後の改善点などについて開発教育の視点から批評を加えていただく。

6 事業の成果

(1)参加者数

Aコース 25名 / Bコース 13名 (スタッフ含む)

(2)教材の改善に向けて

- ・参加者に記入していただいた「ふりかえりシート」により教材の改善点が明確になった。
- ・N G O相談員より、教材の今後の改善に向けてのアドバイスをいただくことができた。

7 参加者の感想から(振り返りシートの一部)

- 戦争 = 悪という答えを植えつけられている部分がどうしても拭い切れないので、ここから新しい観点を導き出すのは、きわめて困難であるため、何か新しい価値観を導き出せて共有できるワークショップを作ってほしいと思います。
- 学校とは違ういろんな年代(経験や知識)の人がいて、話をしている刺激的で面白く、新たな発見ができて面白かった。海外の学校にいたとき、原爆の話になったときに、海外の学生は何も知識がなかったことに非常に驚いた。このようなワークショップに海外の人に参加してもらおうと良いと思った。
- 開発共有の手法について学ぶことができて有意義でした。被爆体験のみの平和教育から脱却して真にヒロシマを発信していく教育の充実が必要と思います。

8 実践者の感想

- 公開試行ワークショップは、教材づくりに非常にプラスになった。いろいろな見方や評価があることに教材づくりの難しさを改めに気づかされた。参加者になってはじめて気づくこともあり、自分で作成した教材を他の人に実践してもらうことの必要性を感じた。
- 参加型の教材は、実際に実践してみないと、改善点は見えてこないということが良くわかりました。時間配分なども実際に試行してみて、課題があることがわかりました。今回のワークショップをうけてさらに改善していきたいと思います。
- 市民有志のご参加による試行ワークショップの機会を頂き、参加して下さった皆さんから忌憚のないフィードバック、アドバイスを頂けたことに心より感謝申し上げたい。教材を作成し、推敲を重ねていく上で、参加型学習に最も重要な実践とフィードバックの要素をこの段階で体験できたことで、今後、実際に使って頂くための教材の展開案の幅が大きく広まり、内容も深まった。それと同時に進行上、考慮すべき点も見つかり、今後の教材作りへの意欲もさらに高まった。



11/26 岩崎先生よりあいさつ



ワークショップの様子



11/27 平和公園オリエンテーリング



振り返り

